

第 14 回 社会保障審議会統計分科会 生活機能分類専門委員会での意見

ICF の普及等について

○ 現状と課題

ICF のコンセプトは、医療的側面からだけでなく、環境因子等を加えていくという考え方であり非常に重要であるが、このコンセプトのために、分類は広範囲をカバーしており簡便なものではない。使用をすすめるためには具体化させ、シンプルにし、データを出した上でメリットを説いていく必要がある。

ICF 分類は、全体に配慮しつつ部分的に使うこともできるので、戦略として使いやすい心身機能・身体構造から、また、特定のある種の疾患なり状況の中から使用することをモデル事業的に始め広めていってはどうか。

数年の期間で戦略的に目標を立てて進めることが必要であり、医療現場から始めて障害や生活に関わるところへ普及していくのがよい。

○ 具体的手法・戦略

①特定の疾患を念頭においたモデル作り

→脳卒中や大腿骨頸部骨折などの具体的疾患を例とし、評価や情報収集の実質的な方法を検討

②ICF について我が国における研究や報告、政策的活用事例等の確認

→俯瞰的にみて利活用

③ロードマップの作成

→普及のためのアプローチを戦略的に実施し、利活用のためのエビデンスを収集

○ その他のご意見

- ・医療介護連携が 2025 年までに展開しようとしている中では、必要となる分類である。高齢者医療確保法の医療費適正化計画で臨床効果のデータベースなど構築されれば、治療による状態の変化の評価に ICF が使えるのではないか。
- ・地域医療の場で介護職、医療職等多職種が連携するための医療記録（手帳など）において、評価に用いれば有用ではないか。
- ・教育は進めるべき。
- ・ICF の評価項目が、例えばリハビリテーション総合実施計画書等の公的書類で活用されれば、効果的に普及できるのではないか。
- ・ICF の普及には広報も重要であり、統計の中だけでなく、さまざまな政策の中で「ICF」という言葉を明示的に使うことで普及に繋がる。